

PRESS RELEASE

報道関係各位

2025 年 10月7日

株式会社 Ridilover

11 月 18 日(火)13 時～開催

環境省主催「地域循環共生圏フォーラム 2025」の登壇者が決定！

地域×企業・金融機関により環境・社会・経済の課題解決の好循環を目指します。

環境省では、「地域に着目する企業・金融の実践と共創～環境・社会・経済の好循環を目指して～」(<https://business.form-mailer.jp/lp/687b4b77309401>)と題し、11 月 18 日(火)13 時～イイノホール&カンファレンスセンターにてフォーラムを開催します。(オンライン配信あり・会場参加者のみ交流機会あり)

イベントページ: <https://business.form-mailer.jp/lp/687b4b77309401>

株式会社 Ridilover(所在地:東京都文京区、代表取締役:安部敏樹、以下「リディラバ」)は、令和7年度地域循環共生圏創造事業費(地域循環共生圏に係る戦略的広報業務)を受託し、本フォーラムの事務局及び地域循環共生圏の広報戦略の業務を担当しています。



このたび各セッションの登壇者が決定し合計3つのセッションで地域と環境、経済の課題解決の好循環を目指す手法について考えます。

本フォーラムでは、持続可能な地域づくりを進める省庁、企業、金融機関、地域のプレーヤーが一堂に会し、実践を共有しながら、学び・交流・連携を深め、地域循環共生圏のさらなる広がりを目指します。

会場参加者向けに、各プログラムの合間には交流タイムを設け、会場ホワイエに地域づくりに取り組む企業・団体・省庁の皆様による展示おこない、登壇者や参加者が自由に意見交換や質問を行える時間を設けており、以下のような機会となります。

- 省庁の施策を自身の活動に活かす具体的なヒントが得られる
- 協業先の自治体や地域の団体と出会い、次のアポイントのきっかけが得られる
- 既存の融資先や出資先について、今後の事業展開の具体的なアイデアのヒントが得られる
- 新規の取引先や融資先についてのアイデアのヒントが得られる

【開催概要】

イベント名：地域循環共生圏フォーラム 2025

地域に着目する企業・金融の実践と共創
～環境×社会×経済の好循環を目指して～

日時： 2025 年 11 月 18 日(火)13 時 00 分～17 時 05 分(開場 12 時 30 分)

開催形式： 会場(定員 500 人)・オンライン配信(上限なし)

会場： イイノホール&カンファレンスセンター

住所： 東京都千代田区内幸町 2-1-1 飯野ビルディング4階

【申込方法】

下記の URL から申込フォームよりお申し込みください。

■会場参加の方

https://eventpay.jp/event_info/?shop_code=4654502933834750&EventCode=P725625349

■会場参加の方

https://eventpay.jp/event_info/?shop_code=6531724286139316&EventCode=P523874798

申込み締切：2025 年 11 月 17 日(月)23:59 まで

※会場参加は先着順につき、定員になりましたら予告なしに申込み終了とさせていただきます

【プログラム】

13:00 開会

13:10 各省庁の地域施策を横断的に読み解く

～企業と金融機関とともに地域ごとの未来を実現する～

【登壇者】(順不同)

- ・植竹 朋子 氏(環境省地域政策課 地域循環共生圏推進室長)
- ・野崎 伸一 氏(厚生労働省 社会・援護局 地域福祉課長)
- ・伊奈 友子 氏(経済産業省 中小企業庁 商業課長)
- ・鈴木 洋平 氏(総務省 地域力創造グループ 地域政策課 理事官)

【モデレーター】

- ・安部 敏樹(株式会社 Ridilover 代表取締役)

14:10 企業×地域セッション

企業や金融が地域に関わる理由 ～同時解決を目指す地域のパートナーとして～

【登壇者】(順不同)

- ・小林 味愛 氏(株式会社陽と人 代表取締役)
- ・望月 幹 氏(コクヨ株式会社 経営企画本部クリエイティブ室/パトンのヨコク プロジェクトマネージャー)
- ・白倉 弘規 氏(東急不動産株式会社 ホテル・リゾート事業本部 グループリーダー課長)

【モデレーター】

- ・見山 謙一郎 氏(昭和女子大学 人間社会学部 現代教養学科 教授)

14:55 交流タイム①

登壇者や参加者が自由に意見交換や質問を行える時間を設けています。会場外の展示コーナーでは、地域づくりに取り組む企業・団体・省庁の皆様と交流が行える場をご用意しています。

15:25 金融×地域セッション

企業や金融が地域に関わる理由～同時解決を目指す地域のパートナーとして～

【登壇者】(順不同)

- ・石井 規雄 氏(京都信用金庫 ソーシャル・グッド推進部長)
- ・石元 玲 氏(株式会社ちゅうぎんキャピタルパートナーズ 取締役 投資部長)
- ・金井 司 氏(三井住友信託銀行 フェロー役員)
- ・下野 陽一氏(株式会社 YMFG ZONE プラニング アシスタントマネージャー)

【モデレーター】

- ・深尾 昌峰 氏(龍谷大学 副学長／政策学部教授)

16:25 まとめセッション

～今、企業や金融機関に求められることとは～

【登壇者】(順不同)

- ・植竹 朋子 氏(環境省 地域循環共生圏推進室長)
- ・見山 謙一郎 氏(昭和女子大学 人間社会学部 現代教養学科 教授)
- ・深尾 昌峰 氏(龍谷大学 副学長／政策学部教授)

17:05 閉会

閉会後～17:40 交流タイム②

登壇者や参加者が自由に意見交換や質問を行える時間を設けています。会場外の展示コーナーでは、地域づくりに取り組む企業・団体・省庁の皆様と交流が行える場をご用意しています。

18:00 情報交換会 *参加費:6000 円(税込／事前決済) 場所:同会場内4階

地域の取組プレイヤー、金融機関・企業の担当者、省庁・自治体担当者と名刺交換・情報交換の機会です。ぜひご参加ください。

【登壇者／モデレーターのご紹介】 ※順不同



植竹 朋子 氏

環境省地域政策課 地域循環共生圏推進室長

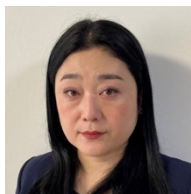
2005 年環境省入省。自然系技官(レンジャー)。現地勤務(白神山地世界自然遺産地域の保護管理)、外来生物対策、環境影響評価、気候変動適応、除染関連業務等に従事。関東地方環境事務所国立公園課長、本省国立公園課国立公園満喫プロジェクト担当などを経て 2025 年7月より現職。現在は地域資源を活用した地域づくり(地域循環共生圏)、地域脱炭素に向けた人材育成、民間活動支援に関する施策を担当。



野崎 伸一 氏

厚生労働省 社会・援護局 地域福祉課長

東京都出身。平成 11(1999)年厚生省入省。政策企画官、生活困窮者自立支援室長／地域共生社会推進室長、広報室長、高齢者雇用対策課長を務める中で、近年は「地域共生社会」のコンセプトづくりから政策立案に継続的にかかわる。2022 年からは、アマタホールディングス株式会社に出向し、資源循環をきっかけとしたコミュニティ育成の事業と地方自治体との協働を担当。さらに、政策領域を超える公民共創のプラットフォームである(一社)エコシステム社会機構(ESA)の立ち上げにかかわり、2024 年 4 月から事務局長を兼務。2025 年 7 月に出向を終え現職に就任。



伊奈友子 氏

経済産業省 中小企業庁 商業課長

通商産業省(現:経済産業省)入省後、中小企業庁調査室長、商務・サービスグループ物流企画室長／消費経済企画室長、内閣官房内閣広報室企画官、製造産業局ものづくり政策審議室長、中小企業庁創業・新事業促進課長など、特に、中小企業・ものづくり政策分野を多く担当。現在、まちづくりや、地域課題の解決に取り組むローカル・ゼブラ企業の政策推進を担当している。ものづくり中小企業の女性経営者の全国ネットワークである、「一般社団法人 ものづくりなでしこ」の設立にも携わる。



鈴木 洋平 氏

総務省 地域力創造グループ 地域政策課 理事官

2009 年総務省入省。静岡県出身。茨城県に2年、広島県に4年赴任し、県の広報・財政の立場から地域活性化に携わる。総務省では、地域の資源・資金を活用した新規事業立ち上げを支援する「ローカル 10,000 プロジェクト」のほか、大学等と地域が連携して地域課題解決に取り組む「ふるさとミライカレッジ」の推進、「ふるさと住民登録制度」や「地域おこし協力隊」等を担当。7月までは内閣官房で「地方創生 2.0 基本構想」の策定に携わる。



安部 敏樹
株式会社 Ridilover 代表取締役

1987 年生まれ。2009 年東京大学在学中に社会問題をツアーにして共有するプラットフォーム『リディラバ』を開始し、後に法人化。現在は教育旅行事業、企業研修事業、メディア事業の他、社会課題解決に向けた資源投入を行なう事業開発・政策立案事業も手掛ける。2024 年、世界経済フォーラム「ヤング・グローバル・リーダーズ」に社会起業家として選出。近著に『みんなががんばってるのになんで世の中「問題だらけ」なの？：知識ゼロからの社会課題入門』（NewsPicks パブリッシング）がある。



小林 味愛 氏
株式会社陽と人（ひとびと）代表取締役

東京都立川市出身。慶應義塾大学法学部政治学科卒業後、衆議院調査局入局、経済産業省出向、株式会社日本総合研究所を経て、2017 年に福島県国見町に株式会社陽と人設立。福島県の規格外農産物の流通など福島の未利用地域資源を活かして地域と都市を繋ぐ様々な事業を展開。2020 年には国見町のあんぽ柿の製造工程で廃棄される柿の皮を活用したフェムケアブランド『明日 わたしは柿の木にのぼる』を立ち上げ。第5回ジャパンメイドビューティアワード優秀賞受賞、サステナブルコスメアワード 2020 シルバー賞及び審査員賞ダブル受賞、ソーシャルプロダクツアワード 2021 ソーシャルプロダクツ賞受賞、第9回環境省グッドライフアワード特別賞受賞、サステナブルコスメアワード 2021 審査員賞・ダイバーシティ賞受賞、2021 年度地方創生賞受賞、2024 年グッドデザイン賞受賞など数多くの賞を受賞。商品の販売に留まらず、経済産業省フェムテック実証事業にも複数回採択され、女性の健康課題に関する研修など医療の専門家と連携しながら様々な普及啓発活動も行う。複数の政府の委員も務める。3 人の子育てをしながら福島と東京の2拠点。



望月 幹 氏
コクヨ株式会社 経営企画本部 クリエイティブ室／バトンのヨコク 事務局

コクヨ株式会社 経営企画本部クリエイティブ室 プロジェクトマネージャー。スマイルズとの協業プロジェクト地域創生伴走活動「バトンのヨコク」のプロジェクトリーダーとして、企業と地域の連携による社会貢献と経済活動の両立を模索中。（直営店 THINK OF THINGS、COPY CORNER のマネジメント兼務）



白倉 弘規 氏
東急不動産株式会社 ホテル・リゾート事業本部 グループリーダー課長

東急不動産入社後、商業施設の再開発、開発型 SPC の AM、運営を担当後、2015 年度よりリゾート事業に従事。ホテル買収にかかるフィージビリティや M&A、用地取得業務を担当。ヒルトン国内初進出ブランドの旧軽井沢 KIKYO curio collection by Hilton の取得〜リブランドに関与する。2024 年度より現職。スキー場、ゴルフ場、別荘複合団地の担当とあわせ、DX を絡めた新規事業の推進と、地方創生の推進を担当。



見山 謙一郎 氏

昭和女子大学 人間社会学部 現代教養学科 教授

専門は経営社会学。1990 年住友銀行（現三井住友銀行）入行。銀行時代は、本店営業部等で企業の経営戦略支援に従事。2005 年同行を退職し、アーティストが設立した非営利の金融組織 ap bank に合流し、理事をつとめた後、2009 年に起業独立。2024 年より昭和女子大学現代教養学科教授。環境省、総務省、林野庁など中央省庁の委員をつとめるほか、（公財）三井住友銀行国際協力財団の評議員など非営利の活動にも従事し、Human-Centered Design のアプローチから様々な社会課題に取り組んでいる。



石井 規雄 氏

京都信用金庫 ソーシャルグッド推進部長

2004 年京都信用金庫入庫、融資窓口、営業や融資審査担当などの業務経験を経て 2019 年に環境省に出向し環境経済課で ESG 地域金融実践ガイドの策定、ESG ファイナンスアワード、環境省と金融庁の連携チームの組成などに従事。2021 年帰任後、3 つの信用金庫と大学と連携して立ち上げたソーシャル企業認証制度の運営のため一般社団法人ソーシャル企業認証機構に出向し事務局長として 3 年間担当する。2024 年京信にソーシャルグッド推進部が創部され担当となり現在に至る。インパクト志向金融宣言の運営委員や京都市の京創プラットフォームオーガナイザーも兼任。個人活動として、全国の金融機関と自治体、行政の職員が参加するコミュニティであるちいきん会の事務局や関西ミライ絵日記アワードの主宰に取り組んでいる。



石元 玲 氏

株式会社ちゅうぎんキャピタルパートナーズ取締役 投資部長

大学卒業後、ベンチャーキャピタル、バイアウトファンドの経験を経て、ちゅうぎんキャピタルパートナーズ取締役に就任。岡山のスタートアップエコシステムの黎明期から活動。スタートアップのみならず、地域金融、地方創生、ソーシャル等をテーマにする全国のイベント・カンファレンスに登壇。瀬戸内エリアの起業家発掘・育成に注力。中小企業診断士、MBA（経営学修士）、中小機構中国本部スタートアップアドバイザー等。



金井 司 氏

三井住友信託銀行 サステナビリティ推進部 フェロー役員

1983 年、住友信託銀行に入社。2003 年にサステナビリティ部署の立ち上げを主導し、

2018 年より現職。この間、同社のサステナビリティ経営の基盤整備、SRI (ESG) ファンドの開発、環境不動産業務の立ち上げ、ポジティブ・インパクト・ファイナンスの開発、テクノロジー・ベースド・ファイナンスチームの組成等を手掛ける。一般社団法人エコシステム社会機構理事、21 世紀金融行動原則地域 WG 座長（初代運営委員長）、インパクト志向金融宣言運営委員長兼地域金融分科会共同座長、環境省「持続可能な社会形成に向けた ESG 地域金融の普及・促進事業意見交換会」、「ネイチャーポジティブ経済研究会」、「地域トランジションモデル構築研究会」各委員、金融庁「インパクトコンソーシアム地域・実践分科会」ディスカッションメンバー、経団連「金融・資本市場委員会・資本市場部会・インパクト投融資 WG」委員、佐渡市総合戦略アドバイザーほか。著書に「CSR 経営と SRI」、「戦略的年金経営の全て」、「自然資本入門」ほか。



下野 陽一氏

株式会社 YMFG ZONE プラニング アシスタントマネージャー

2015 年山口フィナンシャルグループ入社。グループ傘下の山口銀行にて融資窓口、法人営業等に従事した後、2021 年に環境省大臣官房環境経済課に出向し、ESG 地域金融の推進や利子補給事業の新制度設計等に従事。2023 年に帰任後、山口フィナンシャルグループの 100%出資子会社の地方創生コンサルティング会社である株式会社 YMFG ZONE プラニングに配属され、地域と都市部を繋ぐネットワークの形成や地域循環共生圏づくりプラットフォーム構築事業等の地方創生に係る事業を担当。



深尾 昌峰 氏

龍谷大学 副学長／政策学部教授

熊本県出身。滋賀大学大学院修了。1998 年きょうとNPOセンターを設立、事務局長に就任。

2009 年から 2018 年まで公財京都地域創造基金の理事長として市民による公益創造のインフラづくりを展開。2010 年 4 月龍谷大学法学部准教授に就任し、2011 年 4 月から政策学部准教授、2018 年から教授。2022 年 4 月からは副学長も務める。2012 年には社会的投資を促進する株式会社 PLUS SOCIAL を起業、2016 年に日本初の社会的投資専門金融会社プラスソーシャルインベストメントを起業し、2020 年 12 月まで代表取締役会長。その他にも経済財政諮問会議専門調査会「選択する未来委員会」委員など歴任。

【地域循環共生圏とは？】

地域循環共生圏は 2018 年第 5 次環境基本計画にはじめて位置づけられた概念であり、地域資源を活用して環境・経済・社会を良くしていく事業（ローカル SDGs 事業）を生み出し続けることで地域課題を解決し続け、自立した地域をつくとともに、地域の個性を活かして地域同士が支え合うネットワークを形成する「自立・分散型社会」を示す考え方です。

その際、私たちの暮らしが、森里川海のつながりからもたらされる自然資源を含めて地上資源を主体として成り立つようにしていくために、これらの資源を持続可能な形で活用し、自然資本を維持・回復・充実していくことが前提となります。

地域循環共生圏は、第六次環境基本計画（2024 年 5 月閣議決定）において、同計画の中心概念である「ウェルビーイング/高い生活の質」の実現に向けた「新たな成長」の実践・実装の場としても位置づけられました。

詳細はこちら→ <https://chiikijunkan.env.go.jp/shiru/>

本イベントに係るお問い合わせ

問合せ先: chiikijunkan@ridilover.jp

運営事務局: 株式会社 Ridilover